

研究ノート

リメディアル教材の試作例 (3) — 「Why English?」 から 「How to English.」 へ —

福原 慶尚*1

1. 先行研究

筆者がこれ迄に行った標題の一連の取り組みのテーマは次のとおり。

(1) 大学生の英語力の低下と本学学生の相関 — その実態と分析 (2007)

(2) 「リメディアル教材」の構想と開発 (2008)

この段階では、いくつかの問題点がクローズアップされた。たとえば、従来の教材(観)の見直しである。

つまり、

(3) 教材は、教師主導の「Something to teach with」から、学生中心の「Something to learn about」の視点で作られるべきである。

また、上記(1)に対応できるリメディアル教材を導入した授業では、必然的に教授法そのものが変わってくる。つまり、

(4) 従来の「Approach・Method・Technique」(AMT)型の教授法は「Approach・Design・Procedure」(ADP)型に転換するのが妥当である。

その理由は、前者では教師・学生間の言語活動で、「Method」の説明(活動のタイプ:教師・学生間の役割などの具体的なプラン)が不十分だからである。その“プラン”を「Design・Procedure」に記述・実践しようとするのが、後者である。

以上から、

(5) 「リメディアル教材」の開発・導入(2009)に踏み切った。

2. 現在の取り組み

前章(5)の「リメディアル教材」は、次の二つのテーマに分けられる。

(1) 「英語で遊ぶ」から、「英語を学ぶ」へ
(A Fun and Frolic Way to Study English)

(2) 「Why English?」から「How to English」へ
(本誌122-139ページに掲載)

(1)は、既に学生の手に入った。(2)は、英語力の低下傾向にある学生を対象としたもので、リメディアル教材の原点とも言えよう。その原点は、概ね学生の質問や提案を素材にしている。その意味では、(1-2)のリメディアル教材は、学生との共作だと言える。

3. 今後の取り組み

リメディアル教材を活用する最終的なねらいは、それが「英語を話せる」ようになる手段となることにある。

そこで、今後の取り組みは次の三つに要約されよう。

(1) 1.の(3)で触れた「学生中心」のために、CA(Communicative Approach)とLCA(Learner-Centered Approach)の強化、

(2) 1.の(4)で触れた「教師・学生間の言語活動」では、「最終的なねらい」に適した内容・方法により、活動を効果的に行う「活動の科学化」と、活動の主体である学生を尊重する「活動の人間化」の重視、

(3) 1.の(5)の「開発・導入」の実践結果の評価(法)の確立、などである。

*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

1. なぜ、英語を学ぶの？

英語は海である。そこへ世界中の川が流れ込む。

Ralph Waldo Emerson (1803-82)

学生に、上の質問をすると、返ってくる答えは、次の2つに要約できよう。

- (1) 世界の共通語だから
- (2) 単位を取るため

(1) と答えた学生に、再び聞いてみる。

Q：どんな勉強をするの？

A：別に。授業を聞くだけ。(聞くだけ野暮でした！)

これでは「世界の共通語」の勉強は覚つかないだろう。

改めてみんなに聞こう。

Q：なぜ、英語を勉強するの？

A：……

この沈黙こそ、日本人特有の言語文化(つまり、意見を持たず、言わず、沈黙を守る)の表われで、英語を学ぶ上での最大の壁だといえるだろう。次の引用でも分かるように、英語は「自由の声を表現する」ことばなのだから。



ノルマン人の征服以後、英語はラテン語を書き、フランス語を喋る権威者によってなおざりにされ、軽蔑された。

したがって英語は規制もされず、意見を押しつけられることもなかった。当初から英語は自然に抗議と異議の言語であり、少数者の言語よりも多数者の言語であった。その資質は本質的に民主的であった。そして今でもそうである。英語は自由の声を表現してきたのである。¹⁾

1) 岩崎春雄他(訳)、1989『英語物語』文藝春秋、p.68。

左の引用で注目して欲しいのは、「本質的に民主的で」「英語は自由の声を表現してきた」という部分。

‘民主的で’ ‘自由の声を表現してきた’ 英語。それは、時代の流れの中で、ラテン語・フランス語に代わって、今、世界の共通語²⁾になった。

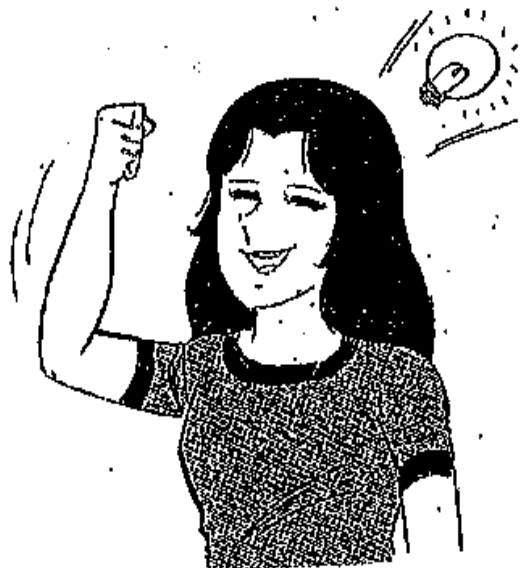
この「共通語」に、前述の「日本人特有の言語文化」を写し出すことで、誰でも「自由の声を表現」できるはず。そのツールとなるのが英語____。これが、「なぜ、英語を学ぶの？」の明快な答えだ。

「自由の声を表現する」のが目的なのだから、英語をペラペラに話せなくても、TOEICの得点が500点³⁾に届かなくてもそれは構わない。グローバル化が進む現代、自分の考えや意見を誰とでもロジカルに言えることのほうが、ずっとずっと大切なのだから。そうすると、「授業を聞くだけ」ではダメ。

その反対に、英語にのめり込んで、英語絶対主義に陥ったり、白人文化至上主義に迎合するあまり、日本の伝統文化を相対的下位におくのはもっとダメだ。

もうひとつ。「本質的に民主的」だとしても、歴史の必然性の裏には大きな犠牲のあることを忘れてはダメだ。

その最たるものとして、英語が「共通語」となった陰で、多くの「小言語」(アメリカン インディアン諸語、オーストラリアの先住民語など)が、消滅・衰退化したことや、「共通語の習得=国際人」という発想が、多くの小民族の歴史・伝統文化を顧みなくなっていることなどがあげられる。



2) クワークら (Quirk et al.1972: 2-6) は、言葉の相対的重要性を計る指標として、1. 母語話者数 2. 地理的分布 3. 文化的重要性 4. 母語話者の経済的・政治的影響力の4つをあげている。

3) 日本人の平均点 (1993-2003) は、476点。

2. 英語がモノにならない…なんで？

私たちは、成功によってよりも、失敗によって多くの知恵を学ぶ。

Samuel Smiles (1812-1904)

2011年度から、小学校(5・6年)で英語が必修に。それから中・高・大・(院)まで延々と続くわけですね。

それでも、英語がモノにならない……なんで？

いろいろな答え方の中から、ピックアップしたいのは、次の3つ。

(1) 人間の生理的本能

人間は誰でも幼児期から言語(母語)を覚え始め、青年期に一応マスターすることは知られていますね。

ところが、いったん母語を覚えてしまうと、他の国の言葉を受け入れにくくなるのです。これが言語干渉。つまり、人間には1つの言葉しか覚えられない生理的本能があるわけです。



そもそも、人間の脳はそれほど器用ではない。

放って置けば、かならず安定した単一言語状態を求めるものだ。⁴⁾

(2) 日本人特有の言語文化

日本人: You and I think and feel alike. (キミとボクは同じ)

英米人: You and I are original. (キミとボクは別)

前章「なぜ、英語を学ぶの？」のおさらいですが、「意見を持たず、言わず、沈黙を守る」。これが日本人特有の言語文化⁵⁾でしたね。「自由の声を表現」するどころか、「言論の自由」さえ平気で犠牲にするようだ。なぜ？人間関係をこわしたくないから_____。

4) 齊藤^{よしふみ}兆央、2006『日本人に一番合った英語学習法』祥伝社、p.133。

5) 参考書として、松本^{せいや}青也、1995『日米文化の特質』研究社出版を薦めます。

日本は今、カネ・モノが豊か。特に「モノ」の豊かさは、日本の社会を平準化し、現状^{ざんてい}暫定志向の人間関係を定着させているようだ。

そうすると、「自分の意見を持たず、言わず……」「長いものには巻かれよ」で済むわけ。

また、日本語の特質の問題—敬語やていねい語などの使い方によって人間関係が決まるという言語風土も見逃せない。これに、相手の「顔色」まで伺うというテクニックが加わってくる。

(いやあ、しんどいことです！)



日本人は冒頭の「キミとボクは同じ」のように、考え方や行動がほかの人と異なるのを嫌う傾向があるようだ。

その背景に、日本古来の「和を以て、^{もつ}貴しとなす^{たつと}」という考え方、つまり画一化された全体への貢献が、1つの美学になっていることがあげられよう。

外国語を学ぶには、日本文化の壁を突き破って、そこから自由にならなければならない。それはきわめて難しい。⁶⁾

(3) 教師・教材・学生の問題

外国語の習得理論の1つ「インプット仮説」の提唱者クラッシュェン(S.D.Crashen)から見れば、日本の英語教育は「すべきこと」をせず、正に「してはならないこと」ばかりをしている。⁷⁾

英語教育の供給側(教師)と需要側(学生)、さらにその両者の共用メディア(教材)に問題があるようだ。それは次章で。

6) 梅棹忠夫・永井道雄(編)、1986『私の外国語』中公新書、p.164。

7) 片山嘉雄^{よしお} 他(編)、1994『新・英語科教育の研究』大修館書店、p.135。

3. では、どんな構えでやるの？

私にとって、困難な行為は、私にとって常に新鮮である。

Paul Valery (1891-1945)

（親が）「高い授業料を払っているんだから」、（学生は）「それに見合う役柄——、できれば主役を取る」ぐらいの積極さがなげや、共通語の学習⁸⁾など出来っこないだろう。

「英語は難しい。⁹⁾ 主役なんかムリ！」と、はなから逃げ腰にならず、発想を変えてみてはどうだろう？「主役は楽しいかも！？」と。

「楽しい」がキーワードになれば、
「主役」の役柄も楽しくなってくるはずだ。



8)「学習」は、もともと私的な営み。個人が必要や関心に応じて学ぶものだ。役柄をイメージすることで、「関心」を高めるという手はどうだろう？

9)（他教科では、情報伝達の主な手段であるコトバそのものが、学習の対象となるが）外国語学習では、まず音声・意味を理解し、次に母語を介して情報処理を行う。この手順に英語学習の難しさがある。

「主役」に求められる演技力、ワン・ツー・スリー！

- (1) まず、「予習」で疑問点を見つけ、
- (2) それを、「授業」で解決し、
- (3) 念のため、「復習」で確認する。

この単純なローテーション¹⁰⁾が楽しいのは、そのプロセスで「知」の創造活動が無意識に行われているからだ。同時に、この活動の中で、自分の潜在能力に気づくこともある。



この2つが、「主役」の演技力をぐ~んと高めてくれる。
(英語学習の) コツや楽しさがわかってくるのも、この瞬間だ。

主役を演じる____。それは社会に出ると、なかなかできるものではない。英語の授業では、そのチャンスは誰にでもある。

それをモノにするかどうか、それはキミ次第^{しだい}！

「私にとって、困難な行為は、私にとって常に新鮮である。」

10) これは、ソーンダイク (E.L.Thorndike) らの外国語学習理論の「準備の法則」(Law of Readiness)、「練習の法則」(Law of Exercise)、「強化の法則」(Law of Reinforcement) に基づいている。

4. センセイと、どう付き合う？

脱皮しない蛇は滅びる。

Friedrich Wilhelm Nietzsche (1844-1900)

日本の大学の先生はティーチング・スキルの意識が希薄で、研究の意識が強くなっています。そのため、教え方はあまりうまくありません。⁹⁾

なるほど。大学のセンセイは研究室の知識は豊富だけど、教え方は別のようだ。どうしてだろう？

理由は簡単！「教え方」の研究は点数にならないのだ。ボクは「研究」のレベルじゃなく、センセイと親子ほども年の差もあるガクセイの実態を知らないからだと思う。

たとえば、ゼミ生と行くカラオケで、「星影のワルツ」や「王将」などしか歌わないセンセイがその典型だろうね（笑）。

そういうセンセイに対する批判を拾ってみた。

- (1) 買わされたテキストを使わんで、コピー教材ばっか使う。（テキスト代返して！）
- (2) 質問に、ちゃんと答えへん。（「基本的には…」「ある意味では…」「取りあえず…」などと言って茶化さんといて！）
- (3) 模範解答以外を認めん。（頭、カチカチや！）



11) 和田秀樹、2007『頭のいい大学（四年間の生き方）』中経出版、p.42

- (4) (遅刻・私語・居眠り・メールをするなどの) 学生を無視する。
(指導できへんの?)
- (5) 提出物が返ってくるの遅い。(試験勉強に間に合わせなかったぜよ!)
- (6) 指摘されたところが試験に出ない。(約束違反だ!)
- (7) 研究へ行っても、不在が多い。(どこで研究してはんのやろ?)

このような事例、キミも経験済みだっけ? 問題は、それを「今さら」とか「センセイとの関係をこじらせたくない」などと言って、黙認してきたことだ。黙っていたら、センセイの「ティーチング・スキルの意識」は変わらないよ。「何が、どうしていけないか」をロジカルに話さなきゃ。それが、「自由の声を表現する」第一歩なんだから。勇気いるよ。

幸い、センセイの心理として、ガクセイからの問いかけは嬉しいもの。それだけ、ガクセイがその授業に関心をもっているということなのだから。

最後に、パパリア¹²⁾ というアメリカの教育学者のアンケート調査結果を紹介しておこう。彼は、学習者にモテる教師の条件を、^{ひとくち} 一口で次のように述べている。

「目標に精進」し、「親近感」があり、「一人一人を激励」したり、「個人指導」をする。

日本の英語教師にも当てはまるこの条件の^{にな}担い手は、他ならぬガクセイ自身だ。もしキミの(英語の)適性が高ければ、認知中心の、また低ければ、行動中心のやり方でセンセイと付き合うことをすすめる。

ではまた、授業で!

1 2) Papalia (1973b : 231-236)。

5. テキストの攻略法は？

自信は、成功の第一の秘訣である。

Ralph Waldo Emerson (1803-82)

Attention, please !

- ここで言う「テキスト」は、各大学で外国語科目として開設されている「英語」に対応する教材。
- 「英語」の授業では、テキストは必ず使われる。(学生にとっては学習の手段、教師にとっては指導の手段だから)
- テキストはその科目担当者が決める。(大学には「学習指導要領」や検定教科書(の制度)はない。)
- 1コマ(90分)で読むテキストの分量は、だいたい1000語から1500語。(高校の「リーディング」テキストの2~3倍くらい)

では、音読と読解の攻略法を説明しよう。

(1) 音読

音読の基本は「習うより慣れよ」。繰り返して読むこと。
読みの速さは、1分間に120語くらいが目安。次の英文(125語)で
実験してみよう。(英文はT. ワイルダーの『わが町』より)

Well, up to a year ago I used to like you a lot. And I used to watch you as you did everything . . . because we'd been friends so long . . . and then you began spending all your time at *baseball* . . . and you never stopped to speak to anybody any more. Not even to your own family you didn't . . . and, George, it's a fact, you've got awful conceited and stuck-up, and all the girls say so. They may not say so to your face, but that's what they say about you behind your back, and it hurts me to hear them say it, but I've got to agree with them a little. I'm sorry if it hurts your feelings . . . but I can't be sorry I said it.

→ 秒 / 125 語

「繰り返して読む」とき、タイムを記録しながら、レース感覚でやると楽しい。

テキスト： <i>Our Town</i> (p.65)					
予習		月	日	復習	
分：		秒		分：	
1					
2	:			:	
3	:			:	
15	:			:	



「音読」練習は、立ってやる。立って、身振り素振りを混じえながらやるのがいい。¹³⁾ 目・口・耳・手などがフル稼働^{かどう}し、脳のいろいろなところが刺激されて、情報の記憶が強化されるからだ。

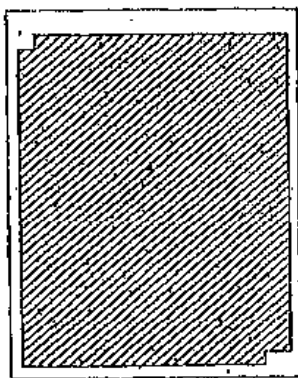
「読書百遍意自^{ひゃっぺんいおのずか}ら通ず」と言う。「音読」を反復・継続してやると、読んだ範囲のアウトラインが浮き彫りになってくる。それは次ページ「読解」の助走にもつながる。

13) アメリカの心理学者メラビアン (A.Mehrabian) によると、一般的な会話で言葉で伝えられるのは 30~35 パーセントぐらいで、残りの 60~65 パーセントは、(ボディランゲージなどの) 非言語的要素によるそうだ。

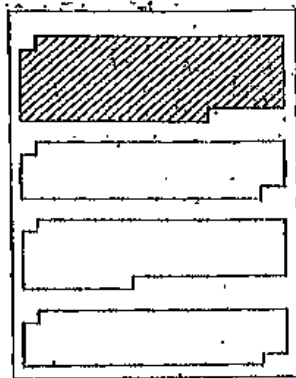
（2）読解

英語を日本語に直す過程で、作者との情報処理を行う作業_____、これが「読解」。

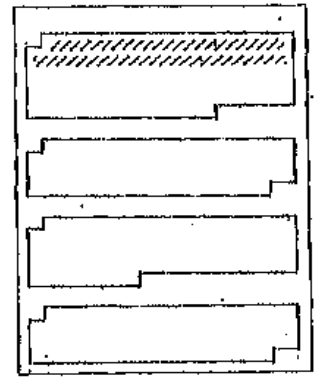
この作業の流れは、次のようにイメージできる。



本文全体から作者の意図
（主題・場面・登場人物・
論述の展開など）の概要をつかむ



作者の意図を段落
ごとにつかむ



一文ずつ訳しながら
自分の考えと対比させる

読解作業の不明点と対応

①単語の意味

She runs a coffee shop in Yamaguchi.

→前後関係から推測し、辞書で確認する→「経営する」

②構文

Do what you say you will do.

→「動詞」ごとに文型を考える。

→「やると言ったことはやりなさい。」

③「十人十色」の日本語訳

ここで実験。次の英文を日本語に直してみよう。

I don't like writing to my father for money except when I have to.



- Aさんの日本語訳 (私は好きじゃない／父に手紙を書くこと／
お金のため／()の除いて)
- Bくん // (僕は必要な時を除いて、お金のため父に手紙を書くのは
好きじゃない。)
- Cさん // (どうしても必要なとき以外、父に手紙を書かない)
- Dくん // (父に手紙を出すのは、お金の必要なときだけ)

ボクのおススメはAさんの訳し方。つまり、英文に「/」(スラッシュ)を入れて細切れにし、前からうしろへ順に訳していくやり方(スラッシュリーディング)。理由は、この訳し方は、はじめに「旧情報」をもってきて、そのあと「新情報」を続けるという英文の構成と一致するからだ。

6. Enjoy English !

学問に時間を費やし過ぎるのは、怠惰である。

Francis Bacon(1561-1626)

(1) 疑問点を見つけておく**予習**

「^{じっぺん}十遍読むより、
(テキストの

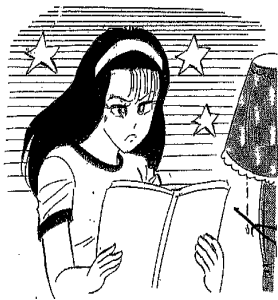


授業で進む範囲を確認したら、
英文をノートに!



次は立ち上がって、
音読。

(自室だから)
「**読書**
ある程度



こんどは、
読解。
疑問点もチェック!

読解は
論理構成
読解の
授業の



ラストは、
疑問点の
整理!

疑問点には
つけておく。

いっぺん
一遍写せ」と言いますから、英文をノートに書き写す。
英文を、コピーして貼り付けてもよい。）

大きな声が出せる。15回戦。（タイムを計りながらやるのも楽しいよ）
百遍意自ら通ず」というように、音読を繰り返すと本文の文意は、
わかってくる。（音読中は、文意にとらわれないこと）

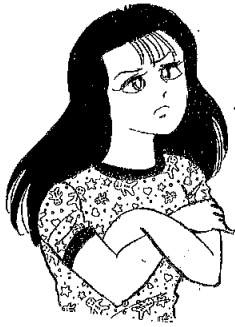
やっかい
厄介。疑問点があつて当然。一番厄介なのは長文¹⁴⁾の
と構文を理解すること。新語は辞書で調べ、論理展開は
流れを参考に、わかるところだけでも日本語訳を試みると
受け方が変わる。（疑問点にこだわりすぎるのは、時間のロス。）

赤ペンで、 ?? () などのしるしを

14) ケロググ (W. Hunt Kellogg) は、英語母語話者 (大人) の一文当たり平均語数は18語で。
一段落当たりでは100語程度だと言う。

（2）解き方をマスターする**授業**

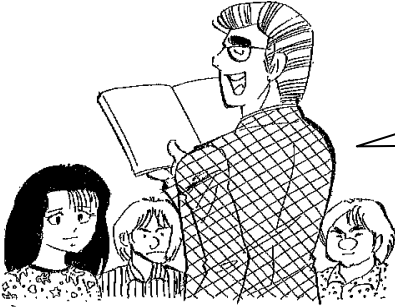
予習から一夜明けると、授業。ここでは「主役の」はいつも空いている^あ。



本時の

授業展開の予測。

予習時の疑問点も確認。



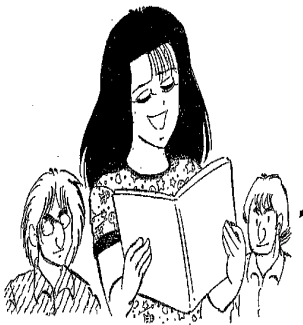
授業開始。

集中力を高めて、

聴解。

聴解（
予習時の）
する。

読解中、
注目
ほかの人
読解の
→



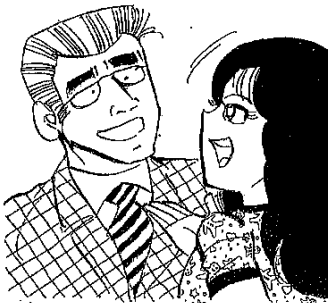
授業のハイライトは、

読解！

「疑問点」の解き方が大切！

新情報・板書はノートに!!

授業が
あれば



必要に応じて、

質問。

授業は予・復習と違って、ほかの学生といっしょにやる共同作業。だから（予習時の）自分の考え方や答えに固執しないこと。

授業中の心構え

- ①当てられたら、分かるところだけでも答える。
（「分かりません」「やってきていません」などは禁句！）
- ②（予習時の）疑問点・日本語訳を完成させる。

のための範読）は、わずか1回で数分。この短時間に音読のチェック、英文の流れ・大意をつかむよう集中「習うより慣れよ」。

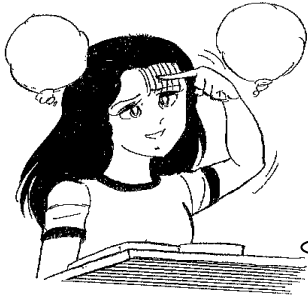
自分の考え方・訳し方に固執しちゃダメ。（ほかの学生の考え方や解答にする柔軟な態度が必要。（人間は、たとえ自分が失敗しなくても、他人の失敗を見て学ぶこと（代理的強化）のできる唯一の動物なのだから。）まとめとしてよく行われる「英問英答」では、（英問に対して）「自分の意見・その理由・具体例・結論」のパターンで答えるとよい。

終わっても、「お疲れさま！」はまだ早い。新たな疑問点があれば即、質問！

教室を出る前に、課題・コピー教材・次時の進度などの確認を忘れないように！

（3）正解のプロセスを確認する **復習**

何があっても、絶対その日にやる。これが復習の鉄則だ！



予め、授業の流れや
ポイントの確認。



まず、
ノート整理。
(BGM、OK!)

ノート整理は
この段階では
BGMを流す
集中させる
予習時の
「予習ノート」



こんどはリラックスして、
音読！

音読は、
処理されて
読みながら

予習時の
問題は



最後は、
疑問点の確認と
課題作成。

復習は家に帰ってやるものとは限らない。

たとえば、疑問点・新情報・配付物などの確認は空き教室で。
日本語訳や課題の作成は図書館で。
新語・構文の暗記は、帰りの電車の中で。

「よっしゃ！」とか「さあ、やるぞ！」と声を掛けることから始めよう！
(これをやると、交感神経が緊張して代謝を活発にするホルモンが分泌する。)

リラックスしてやる。
センセイに、当てられることも新情報も出ないのだから。
手もある。「選曲さえまちがわなければ、BGMは“雑念”を捨て、精神を環境づくりの最大の小道具」。¹⁵⁾
疑問点・誤訳・空所の下に、正答を併記するのが整理上手。
と「授業ノート」のWノートもおすすめ！

予習と復習とは異なる。(予習で分からなかった英文の情報が、復習ではいるからだ。)
文意がわかるくらい‘ゆっくり’声を出して読むのがコツ。

疑問点は、次の授業で解決。授業中に見つけた疑問点は質問して解決。
復習で出くわす新たな問題点。それは次の日、研究室へ直行して解決。

うまくいったものは、
しくじったものの變形である。

15) 多湖 たご あきら 輝、1992『子どもを勉強好きにする仕掛け作戦』ごま書房，p.108。